

<h1>第 331 回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 西山	企画運営委員 保科

- ◎ 日時 2021年4月16日（金）13：00～16：30
- ◎ 場所 web開催（Zoom）
- ◎ 出席者 27名（法人会員：10社18名 個人会員：9名）

1. 報告テーマ「最新の国際規格の動向」 13：00-14：00

担当：TUVラインランドジャパン 杉田吉広氏

概要：ISO規格、IEC規格、NFPA 79及びJIS規格の新設・見直し状況の解説およびQ&A
最近発行された国際規格一覧

IEC/TR 62998-2 (2020-04)	ISO/TR 22100-1 (2021-01)
IEC61496-1 (2020-07)	ISO/TR 22100-5 (2021-01)
IEC61496-2 (2020-07)	ISO/TR 22053 (2021-02)
	IEC 62061 (2021-03-22)

2. 討議テーマ「経営理念における安全の位置づけ」 14：00-16：30

担当：企画運営委員会

第330回月例会に引き続き、自社（又は勤務していた事業場）の経営者の安全活動への姿勢や、社内・中小企業のリスクアセスメントの実態等についての様々な意見交換を、各人のトピックスと合わせて実施。

—主な意見—

- ・災害発生後にリスクアセスメントを見直すと、リスクの過小評価や危険源同定の抜け洩れがあった。
- ・リスクアセスメントはシートのマスを埋めればよい、と認識している企業が多い。目的と手段が逆転している。
- ・中小企業では機械安全の知名度あるいは認識が低い。
- ・経営理念があっても、中堅クラス（実務者）が“安全とはなにか”、“安全を確保するためどうすればよいか”理解していない。更に災害が起きて対応するときも、中堅クラスが機械安全に関する実務ができない。
- ・リスクアセスメント或いは機械安全が普及していない現状を打破するには（法的な）義務化が必要。
- ・経営者には経営リスク（労災発生から誘発される社会的・経済的な損失）の話をしなさいといけない。
- ・新しい安全技術を得るため月例会に参加する企業も多いので、リスクアセスメントはもちろん、機能安全などの設計技術の動向や適用について、情報提供や事例研究が必要。

課題：リスクアセスメントの現状は、目的である災害の未然防止と大きな隔たりがみられる。

安応研の強みを生かして機械安全の普及活動とともに、リスクアセスメントのスキル向上を目指して、今後ポイントを絞りながら討議を重ね問題を解決方法を追求していく。

月例会説明資料：会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
331-2-1	テーマ「自社の経営者の安全に対する考え方や姿勢」の意見マップ